

— 第百拾九号 —

(2012年初秋号)

橋口作陶展

銀座三越では初めての作陶展になります。これまで日本橋三越本店では連続10回も開かせていただき、常連のお客様とのさまざまな出会いがありました。橋口博之の作陶の幅を広げる意味で、世界の銀座で旬のやきもの文化を発信できたらと祈るような気持ちです。

『橋口博之作陶展』 ~いつものうつわ~

会期：平成24年9月12日（水）～18（火）

会期中、橋口連日來場

会場：銀座三越 8階

リミックススタイル ダイニング
(〒104-8212 東京都中央区銀座 4-6-16)

このたび、初めて銀座三越にて作陶展を開催することになりました。カジュアルエレガンスを意識した、使いやすい暮らしの器たちを取り揃えました。お客さまご自身のお好みの色・形をお選びいただけるオーダー受注会を開催いたします（橋口來場時に限り）。



ぎやらりいふじ山 20周年 9.18(火)~22(土)

妹たか子が佐賀に嫁いで37年。フジヤマビル1Fで青花と弟茂正の青磁の器を飾り販売しています。また、隣接して催事ホールがあって週替わりで様々な手芸や工芸その他美術展覧会が開かれています。9月中旬は毎年そのホールを生かして青花の食器展を開いています。時々コンサートもあります。カフェも併設されているので、妹たか子の友人の皆さまをはじめたくさんのお客様が気軽におしゃべりに来て賑やかなサロンになって家族的雰囲気をかもし出しています。妹は市民ランナーであり、おうちごはんのブログも毎日更新しています。走る事もお料理も、毎日続ける事の難しさを良く知っていますので、妹ながらすごいなあと感心しています。特にフルマラソンでは4時間を切るタイムを目標にしたり、おうちごはんは毎食さりげなく青花の器に盛りつけてくれます。器も料理も魅きあって目で見て味わい舌で味わう幸せいっぱいブログになっていて、毎日嬉しくなります。白の器が流行っているようですが、器は料理をひき立たせるものでなければいけません。藍と白の配色のコントラストとユニークな絵柄を楽しむ器は、その役割を十分果たしています。是非ぎやらりいふじ山のブログを検索して下さい。長男の藤山雷太(29才)が指導しているようです。

このたび、ぎやらりいふじ山20周年記念青花新作展を開きます。気軽にお出かけ下さい。

ぎやらりいふじ山 <http://seika.g-fujiyama.jp/>

千両と万両

梅雨の間も、梅雨明けしてからも、玄関や窯場周辺のあちこちに真っ赤な実をたわわに付けた万両をたくさん見つけることができます。よく見ると、白い花が咲いています。濃い緑の葉っぱの下に、万両の赤い実が存在感を誇示しているようです。一方、千両は今葉っぱの上に小さな淡い緑色の実を無数につけています。正月のメインの花として生けますが、その準備を半年間かけて育てているのでしょう。同じ真っ赤な実ですが、私なりに千両と万両の見分け方を最近発見しました。千両は葉の上に実をつけ、万両は葉の下に実をつけます。千と万の違いは、上に出るか下にいるかです。万両はいつ頃まで赤い実を保ち続けるのか、また千両はいつ頃赤く染まるのか、じっくり観察してみたいと思っています。何だか万両の生き方に学びたい昨今です。



千両(写真上)と万両(左)

ベンジャラ箸置物語

やきものは割れるという事を知って欲しい、だからいつまでも大切に使って欲しい、と子供の頃から知って欲しいのです。女優の真野響子さんはおっしゃって、有田焼を選ばれました。そして私たち夫婦やしん窯青花工房の皆さんとおつきあいをしていただいて以来、20余年が過ぎました。陶石から陶土へ、そして細工場で成型し、絵描座で藍と白のコントラストを吟味して文様を描く、1300℃の高温で手の届かない炎の世界に祈るような気持ちでまかせる、そんな細かい分業された世界の中で卓越した職人芸をもってしても、残念ながら100点満点の出来栄えはありません。素焼素地の時に、相当量の陶片を捨てます。そこで、陶片を拾って形あるものに仕上げてみたい、とふと思いつきました。そんな思いでベンジャラ箸置が誕生しました。昔は川の底に眠っていたベンジャラを起こして、食卓の小物に変身させました。ベンジャラを握っていると、自然界のパワーをいただいているような錯覚さえ感じます。お守りとしても、そっと身に付けていただければ、望外の喜びとするところです。



青花のおなじみの絵柄を施しました（展示場にて販売中）。

陶芸教室

早、第14期しん窯陶芸教室の開講案内です。

8月26日（日）10：30amより、しん窯花座棟で始めます。第13期後期特別教室を初めて開きましたので、後期の閉講式と第14期前期の開講式を同時に行います。10：45am～11：15am頃まで、窯業技術センター所長勝木様にも卓話を行っていただき中味の濃い閉開講式にしたいと思います。

2012(平成 24)年度 第 14 期(前期) しん窯陶芸教室のご案内

今年度も、しん窯陶芸教室が開講されます。前期は、8月末に開講式、6ヶ月間の講習期間の内に複数回の登り窯焚きを行い、2013年3月初めに閉講します。

開講日は毎週土曜日で、定員 10 名(10 人~12 人)の募集人員となります。講習時間は 1 回につき 3 時間です。開講式・閉講式は日曜日に行います。

基本的にロクロによる作陶を講習します。使用陶土は「唐津土」です。希望者には天草陶土による磁器ロクロも講習します。

絵付け・装飾などの加飾技法についても、簡単な講習を行います。

■大まかな講義内容(予定)

開講式(合同)→タマづくり→ヒモづくり→タタラづくり→ロクロ成形→
加飾→釉掛け→登り窯(第一回)→ロクロ成形→加飾→釉掛け→
登り窯(最終回)→閉講式(合同)

■開講時間

午後コースのみ 13:30~16:30(3時間)

■開講日(予定)

2012年 9月 1日(土)~2013年 2月 23日(土) 毎週土曜日 全23回予定

9月 1日、8日、15日、22日、29日	10月 6日、13日、20日、27日
11月 10日、17日、24日	12月 1日、8日、15日、22日
1月 12日、19日、26日	2月 2日、9日、16日、23日

2012年 8月 26日(日) 開講式 10:30 a.m~

2013年 3月 3日(日) 閉講式 10:00 a.m~

■登り窯窯焚き(予定)

2012年 11月 ・ 2013年 2月 (変更になる場合があります)

■各種料金

入会金(新規入会者のみ)	10,000円
会費(1期一括前納)	50,000円
陶土(焼成技術料含・持込も同料金)	土物 300円 /kg
	白磁 400円 /kg

※電話やFAXでのご予約を承っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

TEL 0955-43-2215 FAX 0955-43-2889

しん窯 田中 啓文